

## ランク付け

加藤ゼミナールのテキストでは、3段階のランク付けとマーク・アンダーラインの指示により、記憶する範囲を絞り込むとともに、記憶する範囲の優先順位を明確にします。

### 1. ランク付けの方法

加藤ゼミナールのインプットテキストには、これまでの司法試験・予備試験の出題傾向を踏まえて、出題可能性を主たる基準として、分野、判例・論点ごとのランク付け（A・B・Cの3段階）をしています。

ランクは、テキスト右の余白にあらかじめ反映しています。

### 2. ランク付けの意味

以下は、判例・論点ごとのランクに関する大まかな意味です。

A	理由付け・規範の双方につき、マーク箇所を正確に記憶する
B	マーク・アンダーライン指示のある規範さえそれなりに正確に書くことができれば、合格水準に達する
C	仮に出題された場合に備えて、論点の存在と解釈の結論（判例・通説の立場）を知っておけば足りる（判例・通説っぽい解釈の結論を書くことができれば、合格水準に達する）

## マーク・アンダーラインの指示

### 1. マークとアンダーラインの違い

マーク箇所の方が重要です。まずはマーク箇所から優先して記憶し、マーク箇所の記憶が定着してきたら、アンダーライン箇所まで記憶範囲を広げます。

マーク箇所は、必ず、正確に記憶する必要があります。これに対し、アンダーライン箇所は、余力があれば、ある程度不正確でも構わないから記憶しておくというイメージです。

### 2. マークの色分けの意味

ブルー	テキストの記述のうち、最も正確に記憶する必要があることです。主として、定義、判例・学説の規範、条文知識などです。 原則・例外のうち、原則部分について使うこともあります。
ピンク	条文の趣旨、論証の理由付け、判例の当てはめ（積極方向の事実・評価）などです。
オレンジ	反対説、反対利益、判例の当てはめ（消極方向の事実・評価）などです。 原則・例外のうち、例外部分について使うこともあります。 ブルー&ピンクの反対に位置することに使うというイメージです。
グリーン	問題意識、テクニカルタームなどです。 4色の中で、最も使用頻度が低いです。

### 3. アンダーラインの色分けの意味

黒	条文知識、論点の結論、余力があれば記憶してほしい規範などです。
青	条文の趣旨、論証の理由付け、当てはめ（積極方向の事実・評価）などのうち、余力があれば記憶してほしいことです。 原則・例外のうち、原則部分について使うこともあります。
赤	反対説、反対利益、判例の当てはめ（消極方向の事実・評価）などのうち、余力があれば記憶してほしい箇所です。 原則・例外のうち、例外部分について使うこともあります。 黒・青の反対に位置することに使うというイメージです。
緑	問題意識、テクニカルタームなどです。ほとんど使うことがありません。